

令和6年度 第3回千葉県博物館協議会 議事録

日時：令和7年3月11日（火） 午前10時00分～12時00分

会場：千葉県立中央博物館 会議室

出席者： 委員 高橋委員（議長）、布施委員、卯木委員、湯浅委員、鴻野委員、
細矢委員、綱島委員、門脇委員

博物館 美術館：中松副館長、高山普及課長

中央博物館：稲村館長、田中副館長、小田島副館長

現代産業科学館：尾崎館長、堀内学芸課長

関宿城博物館：糸原館長、竹内学芸課長

房総のむら：鎌形副館長兼事業課長

文化振興課 村田副主幹、宮川副主査

事務局 伊左治企画調整課長、石渡上席研究員、山本上席研究員、園部研究員

※ 配付資料確認【事務局】

- 1) 議事次第
- 2) 協議会委員名簿、出席者名簿、座席表
- 3) 議事資料 千葉県立美術館・博物館の令和7年度の事業計画について

1 開会【事務局】：委員10名のうち8名の出席により会議成立。

傍聴者1名

2 あいさつ【中央博物館：稲村館長】

3 出席委員自己紹介

3 出席職員自己紹介

4 議事（別紙参照）

5 諸連絡【事務局】

6 閉会【事務局】

(別紙)

【議事】

<千葉県立美術館・博物館の令和7年度の事業計画>

【高橋議長】

本日も活発なご議論をよろしくお願いいたします。本日の議事は、「千葉県立美術館・博物館の令和7年度の事業計画について」となっております。それでは各館からご説明いただきたいと思っております。まずは美術館よりお願いいたします。

【美術館】

令和7年度の展示計画に関して、まずは現在開催している「千葉県立美術館100選」は、美術館開館50周年の周年記念展示です。学芸員が選んだ100点の作品を、和文と英文の解説をつけて、書籍で刊行しました。その書籍に掲載された100点すべてを展示しようという展覧会です。次に「民藝 MINGEI」、昨今毎日の暮らしを見つめ直して、より良いものにしていこうという機運があるかと思っております。その流れに対応すべく、民芸というものに注目した展覧会を開催します。夏には「没後50年 高島野十郎」を開催します。高島野十郎は、晩年柏市で過ごしており、千葉県に所縁があるということで紹介いたします。「第49回千葉県移動美術館」は、開館以来かなり早い時期から取り組んできた事業です。10月から「千葉県展」、11月から「写真家、サラ・ファン・ライ展」を企画しております。このサン・ファン・ライはルイ・ヴィトンなどの仕事で注目されるオランダの若手写真家です。県立美術館は、現在写真のコレクションはなく、これまで写真の展覧会を開催したことはありませんでした。今後多様化していくアート表現に対応していくため、まずは写真を取り上げてみようと思っております。年明け冬には、「神谷紀雄展」を予定しております。千葉市を拠点に活動している陶芸家で、現在、千葉県美術会の会長をされている神谷さんの展覧会です。

次に、令和7年度の教育普及関連事業になります。4月から年明けの3月までの展覧会に合わせ、リンクするかたちで、様々なトークやワークショップを計画しております。例えば8月の「夏休み子どもアトリエ事業」は、次年度新規事業として取り組もうとしているものです。当館は創作のための施設「県民アトリエ」があり、夏休み中にお子さんに向けた事業ができないかと企画したものです。11月ごろの「ミュージアムコンサート」では「ジャズ」なども取り上げてみてはどうかと計画しております。千葉県立美術館の建物は著名な建築家によるものなので、「建築探検ツアー」というものを計画しております。地域や学校との連携ということで、「ミュージアムバス」というものを計画しております。実験的な試みですが、次年度は県内に3便ほどバスを出し、普段なかなか千葉市内にアクセスしづらい生徒さんたちに来ていただけないかと計画したものです。年明けの「触れる彫刻」展示は、様々な人に

アート体験をしていただくために、見るだけでなく、触って鑑賞できる展覧会として、筑波大学と協力して開催しています。情報発信というところでは、美術館案内の英語版を更新していくこと、また「ブランドブック」というものをこの度作成し、この英語版を作成しようと考えています。ブランドブックは、千葉県立美術館活性化基本構想と実施計画、美術館のコレクションなどをわかりやすくまとめた小冊子となっています。

最後に千葉県立美術館の主要事業ということで、オランダの写真家サラ・ファン・ライ展は、これまでにはなかった美術館の特徴ある企画になるかと思います。またデュッセルドルフとのアーティスト招聘事業として、今年度千葉県在住のアーティストをデュッセルドルフに派遣して、現地で2か月間滞在制作し、デュッセルドルフでその成果を展覧会として開催し、帰国後、さらに千葉県立美術館のアトリエで約2か月間制作を行い、デュッセルドルフと千葉県立美術館での制作の成果として、現在千葉県立美術館の第6展示室で展覧会を開催しています。今年度は千葉県からデュッセルドルフにアーティストを派遣しましたが、来年度はデュッセルドルフから千葉県にアーティストを招いて、2か月ほど滞在いただき、県民向けのワークショップやアーティストトークや交流会などを企画しています。

【高橋議長】

質問などをいただきたいのですが、私の方から少しキーワードを提案させていただきたいと思います。まず、ひとつは広報が大切だと思いますので、効率的な広報などの視点があったらご意見・ご質問をお願いします。また新たな来館者が欲しいので、良いアイデアなどあればお聞かせください。また来館者の満足度を上げるためのご提案などありましたらお願いします。また前回の会議で、連携というキーワードがありましたが、そういった連携に関してもコメントなどいただければと思います。これらに限定するわけではなく、それ以外にも様々なご質問・ご意見など伺いたいと思います。

【細矢委員】

広報というのがやはり大事だと思います。実施計画にある県立美術館の認知度について、「知っている」と回答した県民が現状40%であり、決して高くはないようです。実は、筑波実験植物園も市内ではあまり知られていない、知る人ぞ知るようなことが起こっています。知名度は来ている人に聞いてみても仕方がないことで、来ていない人にどう知らしめるかということが一番大事です。

5月から始まる「民藝」は、非常に面白いと思いました。民芸というのは、自然の素材をうまく使って暮らしの中に活かすのですから、博物館の資料と非常に親和性が高いのではないかと思います。したがって、中央博物館の方でこの民藝のことを広報する、逆に民芸を美術館の方で中央博物館のどこかの博物館の展示と結びつけることによって、お互いに連携が進み、広く広報ができる、外部から人を招くことができるのではないかと思います。美術という和生活とは直接結びつかず、何か難しいことをやっているということに陥ってしまう

可能性が高い分野だと思うのですが、決してそんなことはないという、イベント体験と学びが非常に充実していて面白いなと思いましたので、学校などに押していくことで、認知度も上がっていくのではないかなと思います。

【鴻野委員】

民芸はこの数年いくつか大きな展覧会がありました。今回は千葉県我孫子市からはじまった民芸運動の歴史にからめたコレクションも展示されるということで、新たな視点から民芸の歴史が照射されるのかなと楽しみにしております。また高島野十郎の没後50年ということで、私もうかなり前に目黒美術館で展覧会を拝見しましたが、今回は最大規模の回顧展であり、しかも千葉で過ごしたということもあって、美術史上重要な問題を展覧会として扱われながら、地域にも根ざしているたいへん興味深い企画だと思います。浅井忠の広報ではいろいろな工夫をされていて、たいへん勉強になりました。観客の方が写真を取ったものが展示されていたり、また近隣のレストランやいろいろな施設との協力があったと思うのですが、もし来年度もそうした取り組みが予定されていたら教えていただければと思います。また、ミュージアムバスですけれども、たいへん素晴らしいと思います。普段学校から来ているときは、生徒たちは独自のバス、学校側が用意したバスで来ているのでしょうか。このミュージアムバスはどのような人を対象としているのですか。

【美術館】

企画展の予算でバスを用意し、希望の学校に来ていただく予定です。まだ計画の前段階なのですが、たとえば高島野十郎が晩年柏に住んでいたということで、このバスを使って柏の学校と何かしらできたらいいのではと検討しています。

広報については、今年度は浅井忠のアクリルスタンドを作り、それを「旅する100体の浅井忠」というコンセプトで、希望者にお渡しして、そのアクリルスタンドをもって、国内にとどまらず海外のあちこちに行かれた様子を写真に取っていただき、SNSに挙げていただくというような企画展開を行いました。最後はその旅した浅井忠が会場に集結したのですが、面白い企画になったと思っています。次年度はいまの段階で具体的にお話しできるようなことはないのですが、今年度の成果をもとに次の一手というものを考えているところです。

【綱島委員】

私は千葉市のまちづくり協議会などにも出席しているのですが、千葉市と千葉県立美術館とがもっと連動したら、良い相乗効果を生むのではないかと感じたりします。たとえば今年で言うと4月からの「千葉市国際芸術祭」についても、プロモーションも含めて一緒になって色々やることで双方にとってメリットも出るように思います。県民や市民は「県だ」「市だ」という区別をして美術館や博物館を観覧されるわけではないので、県が特定の市との連携を深めるというのは難しいのかもしれませんが、千葉市が来年、開府900年の事業が始

まりますので、連携して広報していくことで、お互いに有益になっていくのではと考えてまいります。その流れで申し上げると地域の「お祭り」についてです。県立美術館近くの千葉みなと地区では夏・秋に大漁まつりや、さんばしまつりがおこなわれます。さんばしまつりは3万人規模の来場者があります。昨年のように県立美術館の展示とセットで、お客様への告知をしていけば、3万人のうちの何割かの方が美術館に行くだろうと思います。昨年の大漁まつりは雨でしたが、その後のクリスマスマーケットも含めて、千葉みなと地区の活動と県立美術館が連携する動きを事業計画のなかで盛り込むことで効果を高められるのではないかと思います。それから答えづらい質問で恐縮ですが、県立美術館の今年の展示計画の中で、最も力を入れている展示を1つ挙げるとすれば何になりますか。どれが一番の推しなのかを教えてください。

【美術館】

たいへん難しい質問で、希望をいえば全部ですが、あえて一つをとということであれば、サラ・ファン・ライとなります。

【高橋議長】

非常に千葉県の美術館ということ意識された計画だというふうに拝見しているのですが、高島野十郎でもサラ・ファン・ライでも、美術館からは遠いところが舞台となっている気がするのですが、地域の人に興味をもってもらってここに足を運んでいただくための手だてについて、何か計画はございますか。

【美術館】

企画内容で、たとえば千葉市周辺在住の方に高島野十郎やサラ・ファン・ライに共感をもって訴える部分というのは少ないと思うのですが、これはおそらく今年度の浅井忠でも同様ではないかと思います。そこで浅井忠では、あなたも大切な人に絵はがきを送ってみようということで、浅井忠が描いた直筆の肉筆の絵はがきを大量に印刷し、大切な人に手紙を書いていただくという試みをしました。高島野十郎にしてもサラ・ファン・ライにしても、そういった工夫で距離感を縮めていきたいと考えています。

【高橋議長】

美術品なので難しいとは思いますが、たとえば市役所に一部を展示するとか、コピーでいいのでそういったものを置くとか、そういうことができる可能性はありますか。

【美術館】

会場に来るか、会場に来ないのであればネットを見ていただくというのが、最近の美術館の傾向かと思っておりますので、市役所や近隣施設に展示品を置くということは考えておりません。

【布施委員】

夏休みこどもアトリエ事業を新規で始めるとのことですが、これはどういったものが作られて、作った作品などは美術館で展示とかされるのかということをお聞きした上で、意見など申し上げられればと思っております。

【美術館】

美術館の施設をお子さんにも使っていただく、来ていただくからには何か楽しんでいただくという計画です。夏休みということで、美術館に来て何か制作することで、それによって夏休みの宿題をひとつクリアできるようなものになればと思っています。

【布施委員】

子どもたちは、たいへんユニークな作品を作るので、こういう企画は素晴らしいと思うのと、もし作った作品が美術館の方で一定期間展示などされると、とても喜ぶのではないかと、いろんな人が見に来てくれるのではないかとと思うので、今後の試案にいられていただくとよいかなと思いました。私どもの市内の小さな公民館では地元の子どもたちを対象に、子どもたちが地元を撮影した写真展というのを行いました。とても素敵な、すばらしい、子ども目線でドキッとするようなものもあって、それを見に来る地元の人も嬉しそうにそれを見ていました。そういったことでより身近さが上がるのではないかと思いました。これもひとつのアイデアとして参考にしていただければと思うのですが、数年前、銚子電鉄の外川の駅に行った際に、駅舎内に地元の子どもたちが作った近所の商店の宣伝の手書きのポスターがありました。とても子供らしいユニークな視点で素敵だなと思いました。最近は授業とかで商店とかを子どもたちが見学してポスターを作ったり、観光地を紹介したりというのがあって、たとえば県内でも各地でそういう取り組みをされているところがあると思うのですが、これを一堂に集めたら、子どもたちのアート作品としても楽しいですし、子どもたちが地元の名物や名勝を紹介するととても面白い観光パンフレットないし観光ガイドになるので、外国の方にも喜ばれるかもしれないと考えておりました。

【高橋議長】

それでは次は中央博物館からお願いいたします。

【中央博物館】

まずは令和7年度の主な展示についてご紹介させていただきます。まずは、特別展「房総のうみの幸 大百科～千葉の豊かな海と食文化」、これは千葉の海の魅力を紹介する展示となっております。実施計画の重点事業のひとつに「千葉の海の魅力を探り、国内外に発信」とあり、これがその取り組みのひとつとなっております。この特別展では人々の暮らしや食文化

と密接に結びついてきた千葉の海に焦点を当て紹介します。展示期間は7月12日から9月23日までで、関連行事として、7月12日にオープニングセレモニーを予定しており、そのほか講演会として期日は未定ですが「さかなクントークショー」、磯の観察会などを実施する予定です。また体験イベントとして、大漁旗づくりなどいくつかのイベントを準備しているところです。秋の展示についてですが、「水辺の昆虫」ということで、トンボやゲンゴロウに代表される水辺の昆虫の魅力や生態、取り巻く課題について紹介する展示を予定しています。春の展示につきましては、「生薬～自然からの恵み」、これは千葉県に伝わる伝統薬や、現在も続く生薬の生産・利用も紹介して、地域に根差した生きるための知恵を共有する展示となっております。

教育普及事業の主要事業としては、講座・観察会を実施いたします。また講師派遣・出張講座なども実施しています。学校連携事業につきましては、学習キットの貸出や、講師派遣を行い、引き続き学校連携を進めていきます。また、職場体験学習、インターンシップ、博物館実習など、受け入れ事業も例年通り実施していく予定です。また地域連携事業としては、イベントや巡回展示などを実施していきます。重点事業の「他機関との連携強化」のひとつとして、「アリオ博」と題して、蘇我の大型商業施設アリオ蘇我と連携して、5月から奇数月第3土曜日にイベントを開催します。

続いて海の博物館の令和7年度の主要事業の紹介をさせていただきます。博物館事業の収集保管・調査研究、展示・教育普及として事業計画をまとめています。ここでは展示事業に絞ってご紹介させていただきます。まずは夏の展示として「それはゴカイだ!!」、普段あまり注目されることのないゴカイの仲間を水槽展示や標本で紹介する展示です。春の展示は、海鳥を取り巻く食物連鎖に着目して、海洋生物の多様性や生態系のなかで海鳥が果たす役割を紹介する「うみ鳥つぶ2」を行います。普及事業では先ほども紹介しました磯の生きもの観察会や海の生きものに関する体験など、房総の海と触れ合う事業を展開していきます。

【細矢委員】

面白い、興味深いイベントが目白押しで、楽しそうだと思います。特に「うみの幸」、食に関しては、ほぼ100%の人が興味を持つであろうと思うので、たくさんの方が来てくれるのではないかと思います。これは海の分館との連携を図るようなことはあるのでしょうか。

【中央博物館】

海の博物館の方では特に展示はおこなわれないのですが、分館の目の前が海となっていますので、磯の観察会などを実施して千葉県の海の魅力をご紹介できるようしています。

【細矢委員】

「食」で興味をもってもらった上で、海の分館に誘導し、さらに海に興味をもつていただく、そのあとに「超深海」を現代産業科学館で開催するという連続したシリーズのようにうまく

展開していくと、より多くの集客が望めるのではないかと思います。

それから「水辺の昆虫」については、絶滅危惧種などが多く出てくるのだと思います。中央博物館の職員は関わっている人も多いのではないかと思いますので、全面的に出していくちょうどいいチャンスなのではないかと思いますので、がんばっていただければと思います。

「生薬」ですが、つい1年、2年ぐらい前に科博でも「毒展」を開催しました。30万人を動員して、やはり毒というと色々な人が興味を持つようです。半面「薬」というとあまり興味を示さない。薬はかならず毒と結びついているので、その毒の面をどこかに出すとブレイクするようなどころがあるのではないかと思います。

【湯浅委員】

中央博物館は千葉県の窓口というか、顔のひとつですので、歴史的なことも取り上げていただきたいということを常々申し上げてきたのですが、今回はトピックス展という形ですが、柳田国男と香取神宮の式年神幸祭を取り上げていただくというのは、たいへん良いことだと思います。もちろんいろいろな取り上げ方があると思うのですが、たとえば柳田国男の場合は、関宿城博物館で行われる『利根川図志』の展示と、何か連携する取り組みがあるのかというのが質問です。あわせてこの中央博物館の2つの展示について内容をご紹介いただければというのが2点目の質問です。3つ目として、先ほど綱島委員もおっしゃっていましたが、千葉開府900年というイベントが今年はあるということで、私も承知しております。いろいろな考え方があり、多様な組織も動いているのかと思いますが、中央博物館もしくは千葉県そのものが、なんらかのかたちで連携をしているのかどうかということをお聞きしたいと思います。

【中央博物館】

県立博物館同士の連携については、第2回協議会において、これからはやはり連携が必要になってくるというなかで、ICTをうまく活用できたほうが良いのではないかと案がありましたので、その辺を検討しているところです。それぞれお互いに簡単なことでリツイートしあうとか、SNSで情報を発信しあうとか、検討しています。展示の内容ですが、柳田国男の著書をいただきましたので、これを県民のみなさんにお見せしない手はないということで、また我孫子にも関わっていることも展示していこうと考えております。香取の展示については、12年に一度の香取神宮式年神幸祭が令和8年に行われますので、その前に紹介したいと考えています。自然史との融合なども考えております。特別展のうみの幸展などもそういった視点を取り入れて、いわゆる分野をつなげるような展示を考えております。神宮展も、今年の万祝展もそうでしたし、人文系の展示も引き続き行っていきます。連携についてですが、みらい計画の実施計画にもありますが、いろんな機関と連携するというのが、重点事業のひとつとなっており、たとえば身近なところでいいますと、青葉の森公園が近いので、そこでいろいろな行事を行っています。タイアップして、博物館に人の流れ

ができるようにアンテナショップのようなものを設置して誘導するなどといったことを行っていきます。大きなところでいいますと、佐倉の歴博と協定を結んでおります。今後の展示についてお互いにイベントをやるときに講師を派遣しあったり、協働したりと、連携をしてまいります。

【湯浅委員】

香取神宮というのは、中世において非常に勢力があり、文書群もかなりあります。千葉の顔として非常に重要だと歴史研究者は認識しており、たとえば私も科研費をとって、仲間と資料調査などをこの5、6年続けているのですが、大変すばらしい文化的ゾーンだとも思いますので、ぜひご紹介いただきたいと思っております。

【綱島委員】

「うみの幸」の催しについて、7月12日のオープニングセレモニーは知事などの来賓が来てセレモニー的なことをおこなうのでしょうか。それから夏休みの7・8・9月に開催し、お子さんも大百科展に来てほしいという狙いがあるのだと思いますが、資料では展示のイメージがわからないのですが、大百科展の目玉はこれだということを教えていただけますか。

【中央博物館】

セレモニーの関係ですが、まだ知事が出席するというようなことは決まっておられません。ちなみに今年の万祝展のセレモニーは知事が出席されました。来年度も同様に行えれば良いとは思っております。

展示のイメージがつきにくいということですが、まだ細かいことをお話しできる段階ではないのですが、企画展示室に入ると、房総の海で囲まれている感じで、そこに房総半島のそれぞれの地域の食べ物や文化、自然環境などを展示していくというようなイメージになるかと思えます。

【高橋議長】

そうすると「うみの幸」展は民俗的というか文化的な展示となるのでしょうか。

【中央博物館】

自然誌や生きものにも触れる展示となります。

【高橋議長】

近くのレストランなどとタイアップして何か行う予定はあるのでしょうか。

【中央博物館】

せっかく海の幸を取り扱うので、食の販売みたいなものは一応考えておりますが、まだ具体的には決まっております。

【高橋議長】

NHK の番組で「ザ・バックヤード」という番組があって、去年中央博が出ていましたが、あれはおもしろい番組で、あのミニ版を先の協議会で細矢委員がおっしゃっていたような動画にして、この展示の作る過程などを動画にしておいて、始まる前からインターネットなんかで流したりすると、宣伝になるのかなと思いました。これは別に特別展だけではなく、そのほかの展示でもそうだと思います。生薬に関しても、県内にけっこう薬学系の大学がありますから、その大学の学生さんを動員するというか、来てもらって何か手伝ってもらうような企画も考えられるのではないかと思います。視点を広げる工夫を是非していただきたいと思えます。

それでは、続いて現代産業科学館、お願いします。

【現代産業科学館】

令和7年度の現代産業科学館の事業計画について説明してまいります。まず一つ目として当館の夏の恒例行事となっております「プラネタリウム上映会」についてです。令和7年度ですが、8月8日から8月27日の20日間で実施いたします。1日の上映回数は5回で、期間中2日間、開館時間を延長して実施する予定であります。令和7年度は、新作を予定しており、新作であります「MEGASTARを生んだ星空」というタイトルで上映を予定しています。世界的プラネタリウムクリエイターである大平貴之氏の原体験、高校2年生のときに訪れた地で見上げた見事な星空の再現に挑むとのこと。そのほか好評だった過去の2作品を交えて、直径23メートルの大スクリーンで鮮やかに映し出される見事な星空を国内外の美しい景色をお届けしたいと考えております。現在は昨年度はじめて導入した事前予約システムの課題であった返金とか入場手続き、出納業務についてさらに効率よく対応できるよう進めているところです。次に「展示運営協力会主催事業」ですが、千葉県に立地する日本を代表する企業、大学などが、現代産業科学館の運営に協力していただいております。「これでわかった、未来の技術」と題して、8月に展示会やサイエンスショー、実験工作教室を実施しています。先日展示運営協力会の理事会が行われたのですが、当館の産業教育やキャリア教育推進のためご助言を頂戴したところです。それを踏まえて令和7年度の展示運営について内容を詰めていきたいと思えます。企画展について、今年度は「見る～生きものの目・機械の目～」と題して、様々な「見る」を紹介したところですが、令和7年度はガラリと変え、海をテーマに「海～海洋国ちばの底力～（仮）」というものを計画しています。千葉県には海に関する多くの日本一が存在し、三方を海に囲まれた千葉県にとって、海は大変重要な存在です。我々がどのように海と関わってきたのかを、職業・技術・安全・学び・楽しむなど様々な視点で見直す機会を提供したいと思えます。そして海の重要性の理解促進を目指し、

郷土への理解と愛着を深めることを目指します。具体的には、漁業の今昔に関しては、伝統的な漁具や、失われた漁、国内では少ないクジラ漁、最新の養殖技術など。千葉の発展を支える千葉港については、物流の大動脈である海上輸送と港湾の様子に着目いたし、船舶による輸送、港での荷役、それに関わる様々な重機などを紹介しようと考えております。また環境・安全・防災の観点で海とのかかわりとして、海上の交通を守る、津波などの災害から身を守ることに触れ、海に関わる危険性や災害への備えなどを取り上げます。海と関わっていく入口としまして、県内の海洋系学科を設置する県立高校や横浜にある港湾職業能力開発短期大学校や、マリンスポーツに関連しサーフボードの職人を紹介したいと思っております。現在は、協力先との4月からの正式な手続きに向けて準備を行っています。それ以外にも、「万博とちば」として大阪万博に関連して「発酵」に関するミニ展示や、収蔵資料を活用したトピックス展示、連携に関しては、ショッピングモールなど近隣と連携しまして、幅広い県民のための博物館を目指したいと考えております。

【高橋議長】

海の展示に関してですが、かなり広いテーマになっているかとおもうのですが、あまり分散しても良くないかなと思うのですが、そのメリハリというのはどのように考えていらっしゃいますか。

【現代産業科学館】

単発で深く取り上げる方法もあると思うのですが、海に関して色々な観点から取り上げていくというのが当館の考え方で、海の切り口で、こういうことも考えられる、ああゆうこともあるというものを提供して、さらに俯瞰して詳しく見ていただければと思います。

【高橋議長】

いわゆる海の大百科事典みたいなものですね。

【現代産業科学館】

最新情報を集めて、海の今昔ではないですけども取り上げたいと思っております。

【高橋議長】

ターゲットはどのぐらいの層に絞られているのですか。下は小学生から上はシニアまでという感じなのでしょうか。

【現代産業科学館】

毎年状況で申し上げますと、幅広くという感じです。当館は体験型の博物館でして、小さなお子さんがたくさんいらっしゃるのですが、一方で高齢の方もいらっしゃいます。中高生

がちょっと少ないと言われており、こちらを増やしたいという意向があります。中高生にも関心があるような話題を取り上げていければと考えています。NHK では今年度、番組で 2 回取り上げていただきました。集客に多大なるご支援をいただいたので、また引き続き次年度もよろしく願いできればと思います。

【綱島委員】

昨年は「見る展」を取材させていただき、ありがとうございました。事業計画のなかでラジオ放送 100 年の展示がありますが、NHK では「放送 100 年プロジェクト」を展開し、年初の 1 月に NHK スペシャル「新ジャポニズム第 1 集 MANGA わたしを解き放つ物語」を放送しました。放送が歩んできた、昭和から数えて 100 年と、これからの 100 年がどのようなようになっていくのか、記念日でもある 3 月 22 日をピークに、様々な番組を予定しています。過去の NHK の放送番組を振り返るという企画を予定していますので、何か連携できることがあれば良いですね。

【高橋議長】

千葉県は海ばかりではなく、川にも囲まれていて、四方を水に囲まれている県だと思っ
ているのですが、そういう視点でイベントというか企画ができないのかなと思います。海ばかりでなく、川も含めて、水運であるとかそういった視点で企画ができるのではと思います。

【現代産業科学館】

どちらかというに関宿城博物館のホームとなるので、関宿城博物館と何か連携してやっていけないか検討してまいります。

【高橋議長】

ぜひよろしく願いいたします。それでは関宿城博物館、お願いします。

【関宿城博物館】

関宿城博物館の令和 7 年度の事業計画について説明させていただきます。これまでは川の博物館ということで、舟運や川とのつながりについて多く取り上げていただいたのですが、今年の 11 月に開館 30 周年を迎えるということで、初めて関宿藩の企画展を今年の秋開催させていただきます。常設展でも紹介はしていますが、下総国の城下町という佐倉、古河、関宿が挙げられますが、その関宿の関宿藩について、当館としても初めてしっかりと皆さんに実像をお示ししたいと考えております。昨年「利根川図志」の企画展を開催しました。利根川図志の世界は非常に豊かで、なおかつ歴史的にも、今と大きく異なる面白いものがたくさん詰まっている本です。企画展ではなかなか全てを取り上げきれなかったもので、今回はそこに記載されている利根川中流から下流域の諸々にスポットをあてたパネル展をこのあ

と4月から6月にかけて開催したいと思っています。さきほどの中央博物館の柳田国男の展示との連携についても、このあと積極的に考えていきたいと思っています。また今年は何博があるということで、発酵県千葉ということで、各館で発酵の企画展、発酵のトピックス展を行います。当館も野田を控えて利根川・江戸川で発酵文化を支えてきた地域のひとつでもありますので、その部分も8月の千葉県の万博での展覧会に合わせるようなかたちで紹介したいと思っています。また、今年は何博100年、戦後80年です。関宿藩士の息子さんであった鈴木貫太郎翁の記念館が関宿城博物館に近くに隣接してございます。貫太郎記念館とも連携して、出張パネル展示ということで、戦後80年というところを振り返りご紹介させていただければと考えております。つづいて普及事業ですが、毎年、歴史講座、博物館セミナー、ワークショップ、ミュージアムトーク、体験教室、研修会・イベント・その他展示というレパートリーがあります。博物館の傍に川があり、城下町があり、それに関わる古文書を保管しているということで、マニアの方には、古文書を読む講座も行っていきます。イベントとして子どもたちにも、古文書に対して興味・関心をもってもらえる楽しい古文書のワークショップもやっております。調査研究員の先生方と連携して、河川がらみ、関宿藩がらみ、河川土木、多岐にわたるセミナーを開催させていただきます。その他河川敷の生きもの探しなど。当館は中央博物館のように総合的な展示というよりはロケーションを大事にした博物館ですので、現地の地形を生かした展示を、講座を、事業をしていきたいと思っています。そして今年は何博30周年ということで、周年記念事業ができる、新しいことができるチャンスを得たと思っています。地域の小学校や高校、それから企業の方々、商工会、観光協会などと連携しながら、お客様に来ていただける事業を行い、喜んでいただき、展覧会を見ていただき、という30周年記念事業を計画しております。企画展では関宿城・関宿藩の歴史をぜひ堪能していただけたらと思います。また実際にその場所が関宿城跡としてありますので、そこで謎解きクイズというかたちで3か月間、展示と併せて、現地を見ていただけたらと思います。クイズの方は知識を問うのではなく、ひらめきクイズでお子さんから大人まで楽しんでいただきながら、なおかつ実際に本丸跡、侍屋敷、総堀の跡なども回ってもらいながら、クイズを手掛かりにお子さんから年配の方まで楽しんでいただければと思います。地域の方々との連携することができますので、この機会に地元の方、新しい方々とも連携させていただきたいと考えています。例えば、まだ正式に決まってはいるのですが、関宿城の横で気球を飛ばしてみようとか、カヌーで川を実際に下ってみようとか、というようなことも考えております。

【湯浅委員】

バラエティに富んだ連携、連続した企画展ということで、たいへん興味深いと思いました。今回の展示で、関宿の城でということ、今歴史畑でもお城は人気が高いので、ぜひその点をアピールして集客を図っていただきたいと思っています。近世だけではなくて、初代関宿城主の築田を取り上げるというのは、マニアックなのですが面白いです。築田家文書も確かお持ちだ

ったと思うので、この機会にその中近世の文化財も併せてご紹介いただけるのはたいへんありがたいと思います。企画展のタイトルの「関宿城に舞う鷹の羽」というのはどういう意味なのでしょう。久世の家紋か何かでしょうか。ああそうですか。鷹は贈答にも使われますし、あるいは生息でもしているのかなと思ったので。

【関宿城博物館】

久世家の家紋からです。

【高橋議長】

例えば「利根川図志」の展示は見てみたいと思うのですが、関宿は遠くてどうしても足が遠のいてしまいます。展示をされた後に他のところに持って行って展示をすることはできないのでしょうか。

【関宿城博物館】

県博で連携して、中央博のほうでパネル展を作成し、県博、他の市町村博とも連携するなどということもやっております。今年、利根川関連の川船の中央博物館と大利根分館と関宿城博物館で収蔵させていただいている関連資料が国登録文化財の答申をいただき、このあと登録となるのですが、それについても川舟について関係のパネル展を中央博で開催されると思いますが、当館も連携しながら紹介する予定です。今後各館とも連携しながら、ご相談しながら是非進めていけたらと思っております。

お恥ずかしいことに、県博はとても広報下手で、もっとしっかりと広報していかなければならないと思っております。

【綱島委員】

内容のことではなく、「広報」の話があったので、一点だけ提案させていただきます。先週野田市役所に、公開番組の関係で説明に伺ったのですが、広報課の方から、最近、野田市内でドラマのロケが増えているという話をされておりました。たくさんの地域や建造物の素晴らしさを映像で露出しているのですが、野田市としてはそれがあまり集客などにつながらないという話をされておりました。先ほど申し上げた千葉市との連携と同じ話しですが、行政同士、県と市が連携して、そのドラマの舞台をなった場所の写真展（パネル展）を、例えば博物館で紹介するなど、若い人やインバウンドを意識した取組みをやったらどうかと思います。

【関宿城博物館】

野田市との連携は、積極的にやらせていただいております。先ほどの気球やカヌーの話も野田市との連携で、野田市が主催の事業で今相談させていただいているところです。ロケの話も聞

いております。また、野田市内には博物館施設が14もあります。極めて多種多様な博物館が14館あり、そこでネットワークを組んで、連携しながら今年の秋に「富士山」をテーマにしたスタンプラリーを14館で行うなど話をしております。どうも野田市内で収まってしまっているのか、多くの方に届いていない状況です。野田市さんとも連携し、また、隣県である茨城県や埼玉県の隣接市とも広域に連携して、皆さんの手元まで広報できるように頑張っていきたいと思っております。

【鴻野委員】

世代を超えて様々な方が楽しめる催しやイベントが企画されていることに感銘を受けました。歴史講座の古文書を読むというのも、とても貴重な取り組みであると思っておりますし、なかなか受ける機会のない貴重なものだと思います。また企画展に合わせてはシンポジウムを開催されるということなのですが、この博物館の常設展はとても良いものですし、場所も良いので、本当に多くの方に来ていただければと思います。一部の催しを対面プラスオンラインでハイブリッド開催すると SNS などで拡散されやすくなって、その時は来られないけれども、また次の機会にぜひ来ようという方も出てくるのかなと思っておりました。

【関宿城博物館】

古文書を読むは、とても人気で、入門編、初級編、中級編と行っています。工夫に工夫をこらし、入門編に参加していただいた方が是非次は初級編に、初級編に参加いただいた方が次は中級編にと参加いただいています。また楽しい古文書ということでゴールデンウィークにお子さん、家族連れなどに楽しんでいただけるようにイベントをやっています。それをさらに広めるためオンラインであったり、SNS を使ったりというのは、小さい博物館なので、単館でやるのはなかなか難しいので、県博の連携のなかで実施していきたいと考えております。

【布施委員】

関宿城博物館に行ったときにびっくりしたことがありまして、私は銚子からずっと利根川沿いを歩いていたのですが、そうしたら関宿城の下の川と川の突端は千葉県ではないのですよね。そこに驚き、逆に何かとても楽しかったのです。先ほどから海の話がたくさん出てきて、三方を海で囲まれている千葉県とよく言われるんですが、そのなかで唯一海に囲まれていないエリア、そこを逆手にとって何か PR のネタに使えることはできないかなと考えておりました。そのときに関宿の突端にあるところは千葉県ではない、もしかするとチーバクんの鼻が黒いのもそのせいかもしれないなどと考えたりしまして、そうやって面白さを PR してもよいのかなと思っておりました。またやはり一番海に囲まれていないところなので、一番近隣の茨城県とか埼玉県とかを身近に感じるエリアだと思うのです。現代版利根川図志ではないのですけれども、茨城や埼玉と県境にあるというところ、昔から面白い図式があるところな

ので、たとえば、現代の中高生の戦国絵巻とかを取り上げてみたりして、若い方たちが関心を持ったり、違いがあるのかはわからないのですが、学校給食などは、けっこう隣接している地域でも全然違うものが出てたりして、近隣の埼玉・茨城・千葉の県境エリアの風土とか文化の違いを楽しんでみるとか、そういった視点に立つと若い人たちの関心も集まるのではないかなと思いました。

【関宿城博物館】

まさしく利根川から江戸川が分流するその場所は、実は茨城県というのは当館のテーマとも重なっていることで、その県境が決まった明治8年の川の跡が千葉県と茨城県の県境になっています。150年前の川があったところということですね。それがその後人が川を改修していき、川が変わったので、ちょうどチーバくんの鼻は黒いということで、新聞で取り上げていただいたりしており、それはしっかりネタとして展示ネタ・解説ネタとしても生かしております。もっと頑張って広げていきたいと思います。

【高橋議長】

それでは最後になりますが、房総むらからお願いいたします。

【房総のむら】

房総のむらの事業についてご説明させていただきます。まずは「まつり」です。まつりは季節や年間の歳時記に合わせて、テーマを設定して年間6回実施しています。5月は春のまつり、8月はむらの縁日・夕涼み、10月秋のまつり、11月は文化の日・日本遺産北総四都市デー、1月はむらのお正月、3月はさくらまつりを実施しております。各まつりでは、テーマに沿った体験演目を用意するとともに、大道芸の披露や民俗芸能の上演を行っております。カレンダーに記載しているとおり6回のまつりは1か月おきなどという場合もございまして、こちらの企画調整するにあたっては、学芸員等25名ほど、現場での直接の技術員等80名ほど、総勢100名ほどで運営しております。展覧会とはまた違いますが、ひとつの事業として大変重要と考えております。次に展覧会です。トピックス展ということで4月に「房総の牧」を令和7年の2月から年度をまたいで4月20日まで開催します。9月は「地中からのメッセージ」で古墳・古代・中世・中近世ということで、千葉県教育振興財団の設立50周年記念展のパート2として開催するものです。9月16日から10月26日までの開催でございます。そして屋外展示としまして「千葉の民俗芸能」を10月18日から11月24日まで開催します。12月は当館の調査研究の成果としての企画展です。「房総の海辺のムラ(仮)」を12月6日から2月1日まで開催します。それぞれ展示の内容について、トピックス展の方は、房総地域に古来より存在した牧は、江戸時代には軍馬の生産地となっており、明治時代には酪農や牧羊が行われるようになりました。本展覧会では、牧の移り変わりの様子を資料や写真を用いて紹介します。企画展の「房総の海辺のムラ」については、千葉

県は三方を海に囲まれ、古くから人々は海と共に生活を営んできました。本展覧会では、下総・上総・安房地方のそれぞれの特徴ある漁村を取り上げ、海に支えられた人々の生活やその変遷を、漁撈用具や浮世絵、写真などを用いて紹介するものです。次に令和5年の4月にリニューアルオープンした風土記の丘資料館での事業ですが、考古学講座を4回実施いたします。考古学の各分野で活躍する研究者を講師に迎え、最新の研究成果をご講演いただき、広く県民の皆様には千葉県の歴史について理解を深めていただけるよう実施いたします。房総のむらに残る里山環境のなかで、里山でよくみられる植物・菌類について、一般の来館者を対象に講師を招いて里山観察会を10月と11月に、そしてまた子供たちに植物や昆虫等に興味をもってもらえる場として、子ども里山観察会を7月と10月に実施します。2月には、当施設に隣接し県内でも有数の野鳥観察スポットである坂田が池周辺での野鳥観察会を実施いたします。また、新たに今年度、里山への理解を深めていただくために6月と11月に里山づくり講座を開催し、里山環境を生かす事業を積極的に行っていきたくと考えております。日本文化への理解を深めてもらうため、伝統的な芸能を体験していただく場として、年2回落語会を開催しております。また伝統文化入門では、来年度は狂言などを予定しております。そして、国重要文化財旧学習院初等科聖堂では、千葉交響楽団による演奏会を計画しております。また多くの歴史遺産をもつ地域を見学する町並み探検隊や千葉県ユニセフ協会との共催事業でありますユニセフ・ラブウォークなども計画しております。

【湯浅委員】

盛りだくさんの事業でこれを回すのは大変なのではないかと思います。千葉の顔ということであれば、房総の豊かな文化的なものを、房総のむらが取り上げていただくというのが、非常に重要なのではないかと思います。あわせて体験型の博物館ということで、私の所属する大学の歴史学の100人ぐらいの1年生と一緒に見学させていただいたことが4、5年前にあり、学生たちはたいへん感銘を受けたようです。

成田空港も近いので、インバウンドの影響、たとえば外国の方がここを訪れるということがあるのかどうかということをお聞きしておきたいです。それから房総の牧も、ムラも、考古学的な成果、考古学講座もあって、非常に重要なアイテムだというふうに思いますので、宣伝の方法はどのようにされていかれるのかをお聞きしておきたいと思います。房総の牧ですと、私は船橋や、松戸あたりの文化財の審議委員もやっているのですが、野間土手という国の史跡にもなるような遺構もたくさんあり、たとえばその草刈りを小学生にお願いしてやってもらうようなことが、結構地域でやられています。ですからそういう土壤があるところで、ぜひ宣伝の方をたくさんしていただければと思います。

【房総のむら】

まずインバウンドの関係ですが、先だつての会議のときも館長からお話しがあったかと思うのですが、コロナ前はそれこそ団体の方々がバスを連ねて、外国の方も多く来ていました。

爆買いといわれていた状況の流れで来られているのかなと思います。今はそういうかたちでのインバウンドではなく、グループや個人の方々がターゲットを絞って来られる。日本の良さを知れるところに来たい、そういう意味では日本の伝統文化を体験できるという意味では、スポットが当てられてもいいのかなと思いますが、交通の便が非常に悪い。成田空港までは来られ、ただ空港周辺のホテルに泊まる方もだいぶ少なくなっているというような話もあります。成田地元での観光も少ないので、コロナ後はインバウンドは非常に少ないといえます。中国関係の来館者はもうほとんどなく、韓国の方々やヨーロッパの方々が来ていただいています、全体的には非常に少ないといえます。今回の企画展の牧関係ですけれども、まさに野間土手あたりを非常に研究して、そういう当時のものを展示して紹介するというかたちで、また講座もそれに合わせた講座も企画したり、また体験でも牛乳カンを作るなど、絞った形で行っております。また近隣の乗馬クラブからポニーをお借りして、ポニーとのふれあい体験も考えております。いろいろなイベントを含めてPRを行っているところです。

【高橋議長】

今のインバウンドに関係するのですが、英文とか中文の外国語のパンフレットやウェブでの解説みたいなものは、どのように対応されているのでしょうか。

【房総のむら】

利用案内は当然作っています。今年はタイ語をプラスして作っているということで、来年度早々には皆さんに見せられると思います。企画展関係は、職員がついて会場内で説明できるような形はとりたいと思っています。実際にそれぞれの言語での解説書を作るというところまではできておりません。

【高橋議長】

インバウンドというと欧米の方は少なくとも団体という感じではなくて、自分で情報を探して来られる方が多いので、何かどんどんと情報を出せることがあると良いのかなと思いますが、この辺はむしろ門協委員にお知恵を拝借した方が良いと思うのですが、どうでしょうか。

【門協委員】

ちょっと難しいのは、実はプロモーションの段階の多言語化と、今話のあったようなパンフレットの多言語化は主旨が違うということです。来る前のプロモーションの多言語化というのは、また方法が異なるのです。実は日本サイトのホームページを翻訳するような、お金をかけて直しているところが多いのですが、実はそのホームページに外国人が辿り着くということはなかなかありません。本当にそこに行きたくて調べて最後に辿り着くぐらいな

のです。プロモーションの段階で、どんな言語でプロモーションしていくかというのはまた違う話かと思います。今、インバウンドがだいぶ減ったとのことでしたが、たしかに団体の方は減っています。ただ、外国人が来ている数は今が過去最高です。ですので、減っている理由は他にあるかもしれないので、千葉県の観光政策課などが、たぶん数字をもっていると思いますので、聞いてみていただけたらと思います。また、県として力を入れている国があります。昔で言うと台湾・タイ・シンガポール・マレーシア、最近ではベトナムとかにも力を入れはじめていますと噂もありますので、県がお金を出してプロモーションをかけていますので、そこに便乗していく方が良いかと思います。これまでも観光ツアーで房総のむらは来ていたと思うので、継続して行っていただければと思います。

あと全体として、先ほどから SNS というお話しが出ていましたので、美術館と中央博物館だけで構いませんが、今 SNS における戦略など取り組みあったら教えていただきたいのですが。

【美術館】

今、昨年度から取り組んでいるのが、浅井忠という展覧会に合わせて、SNS を活用してこの事業を広報するとともに、一般の方に何かしら参加してもらおうという、そういう視点から SNS を活用しております。ウェブサイトに関しては、多言語化には、なかなか外国の方がそのサイトまで辿り着けないということは、私どもも認識しており、多言語化してそれをどこに紐づけすればアクセスしやすくなるか、辿り着いてもらえるのか、検討しています。

【中央博物館】

中央博物館では、実はそこがだいぶ弱いところだと認識しておりますので、来年度 SNS のユーザーの解析事業を行うよう予算をつけ、どういった SNS の活用が最適なのかなど把握しつつ、解析事業を通してまた新たなものがでてくるのではないかと期待しています。今後その辺を進めていきたいと思っております。

【門協委員】

おそらくポスターをもっと刷るとか、チラシをもっと刷るなどよりも、SNS に力を入れた方が、新規のお客さんは獲得できると思います。あとはエンゲージメントというのですが、お客様とのつながりみたいなものがたぶん重要になってくる。あとアートなどは、映像と実は相性が良いので、SNS だと X よりも相性の良い SNS のメディアがありますので、こちらの取り組みもご検討いただけたらよいと思います。

【高橋議長】

ウェブでよりも、やはりインスタグラムとか X をうまく使っていくと、効率が良い、人の目に触れる可能性が高いと考えてよいですね。

【門協委員】

そうですね。映像、いわゆる写真一枚だけで今は世界中から外国人がきます。はまればということもありますので、そのあたりも理解していただければなと思います。

【高橋議長】

なにかそういうので一回講習会とかレクチャーがあるとよいかもしれませんね。他に全体的なもので何かございますか。無いようでしたら、以上で本日の議事を終えたいと思います。